

関東大学女子駅伝

2年生の粘りが光る

第23回関東大学女子駅伝対校選手権大会は9月24日、千葉県印西市の千葉ニュータウン五輪倉庫コース(6区間30.6km)で行われた。全体で昨年と同じ5位でゴールし、10月28日に宮城県仙台市で行われる第35回日本女子駅伝対校選手権大会に23年連続24回目の出場を決めた。

23年連続24回目 全日本選手権へ



トップから6秒差で2区につないだ1区・上田

1区の上田未奈(経営3)がトップから6秒差の区間4位で2区の小笠原晴季(経営2)に繋いだ。昨年3区に起用された小笠原が、今年2区で区間2位となり、チームを2位に引き上げた。3区・佐光菜々子(医療栄養2)、三ツ木桃香(現代政策2)はそれぞれ区間7位と順位を一つずつ下げ、4区終了時点で4位の順位を落とした。5区は相原もこ(現代政策2)が今期が大学駅伝デビュー戦。順位を一つ下げたものの区間4位とまずまずの走りであり、最終区間を任されたのは主将の福居紗希(現代政策4)。しかし、チームを昨年以上の順位に押し上げることはできませんでした。

2区 小笠原晴季(経営2) 調子が上がらず少し不安もあったが、1区の流れを上手く次につなげることが出来た。でも目標だった区間賞を取ることは出来ず、悔しさもあった。後半の粘りや1人になった時の走りも課題なので、距離が長くなっても対応できる走りを目指して練習してきた。

5区 相原もこ(現代政策2) 今回の課題を改善して全日本ではチームに貢献できるようにしたい。

Table with 3 columns: Rank, Name (Year), and Time. Total time: 141分16秒.

記者の目 出合った瞬間「これだ！」 高校2年の時に、将来はマスコミ関係の仕事に就きたいと思うようになった。様々なものを見て、それを人に伝える人になりたいと考えたからだ。入学式で配られた「城西大学スポーツ」(Jスポ)を手に取って、初めてJスポに出合った。その瞬間、「これだ!」と思い入部を決意した。しかし、勧誘期間中に、Jスポ関係者の姿を見ることがなかった。城西大学にはスポーツの部活を立ち上げようとしている人たちが...

1区・上田未奈(経営3) 自分思うような走りが出来ず他のメンバーに迷惑をかけてしまい、チームとしても悔しい結果となった。全日本ではそのようなことがないよう練習を積んで万全の状態に挑みたい。

4区・三ツ木桃香(現代政策2) 1、2区がい流れれて来てくれたので、自分その流れに乗ることができた。競り合う中で、1秒の大切さを改めて感じたレースだった。全日本に向けて、チームの目標を達成するため、スピード面の強化を重点において練習に励みたい。

6区 福居紗希(現代政策4) 4年目の関東大学女子駅伝はチームのみんなに助けられた。私自身は甲斐ない走りをしてしまったが、後輩の頑張りで全日本につながれたことに感謝。全日本ではみんなの力になれる走りをして、シード権を争ってみたい。

初めに走らせてもらい、緊張感や不安はあったが、最低限の仕事をするまでが良かった。しかし、我慢できずに前の人と離れてしまい、タイムもいまいちではなかった。課題が残るレースだったが、満足せずに全日本でも選手として走り、チームに貢献したい。

サッカー部 埼玉県1部リーグ 4連覇ならず 埼玉県1部リーグは10月21日、今シーズンの各日程を終えた。3連覇中だった城西大学サッカー部は、4勝4敗3分(10月1日現在)となり、残念ながら4連覇は出来なかった。リーグ戦で優勝できるが、今シーズンは他大会からのメンバーに苦められた。巻き返しを狙った後期だったが、9月3日の尚美学園大学戦を落とし、次期の文武女子(仮)や、次々節の平成国際大学戦で前期に続いて苦杯をなめたのが大きかった。春のアミパタルカップ県大会に続く優勝はかなわなかった。狼山誠闘勝は、毎年優勝すること、関東リーグ入れ替わり戦に出場することはとても難しい。その難しい

取材スタッフ: 編集長 高桑 隆英 (経営学部4年)、松岡 遼史 (医学部5年)、西村健太郎 (医学部5年)、編集 仁美 (医学部5年)、岩内 栄輔 (経営学部4年)、本多 里菜 (医学部4年)、巻島 麻未 (経営学部1年)、室崎孝佑樹 (現代政策学部1年)、橋谷谷佑樹 (現代政策学部1年)、石川 隼 (現代政策学部1年)、西村 太郎 (現代政策学部1年)、金子 嶋飛 (理学部1年)。アドバイザー: 知見寺亮記 (2014年度卒業)、吉田 美咲 (2015年度卒業)、佐川 由紀 (2015年度卒業)。Jスポ フェイスブックはこちら ▶ http://www.facebook.com/JOSAISPORTS



第94回箱根駅伝予選会

総合力で見事、雪辱を果たす

立川市の陸上自衛隊立川駐屯地から市街地を経て園芸陽台公園にまで20kmのコースで行われ、各校12名ずつ出走し10名の合計タイムを競った。5月通過順位は9位、10月で順位を一つ上げて8位となり、順位を保ったまま20kmを終えた。出走したメンバー12人中10名が60分以内でゴールを駆け抜け、総合力で昨年の雪辱を果たした。3、4年生の上級生が中心の今回のエントリーメンバー。個人では金子元氣(経営3)が24位、菅真大(経営4)が29位と上位に食い込み、チームに貢献した。昨年は、10時間19分10秒の巨額タイムに及ばず、総合12位で予選落ちだった男子駅伝部。今年は小雨、低温、無風の好コンディションにも恵まれ、10時間8分50秒の好記録で本戦復帰を果たした。

新しい伝統への第一歩 過去最高の5位入賞を掲げ箱根路



第94回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)の予選会は10月14日、東京都立川市で行われ、男子駅伝部は10時間8分50秒で総合8位となり、2年ぶり14回目の本戦への出場を決めた。部員たちは一丸となって見事、連続出場を逃した昨年のリベンジを果たした。新しい伝統への第一歩。部員たちは、シード権奪取と過去最高の5位入賞を掲げて箱根路に臨む。【箱根駅伝取材班、写真は高桑隆美】

2年ぶり 14回目の本戦出場決める!

菅真大(経営4) 昨年、出場を逃した悔しい思いをこの年間閉れずにやっていた。結果として出すことができてうれしい。最上級生として走りチームに貢献できたが、この結果は満足せずに全日本箱根の舞台へ力を出せるよう練習に励みたい。

服部潤哉(経営3) 自衛隊の回りの予選会だったが、1年前に悔しい思いをした。この結果は言葉に表せないほどの悔しい。故障もあり、本々の力を出し切れなかったが、これから本戦に向けて再スタートが出来る。より真摯に競技に取り組みたい。

中原佑仁(経営2) 今回の選手として走らせてもらい、しっかりと走りこなすことができてよかった。悔しさを次にしっかりとつなげたい。

菅真大(経営4) チームとして予選会突破することができて良かった。個人としては、チームに貢献することができてよかった。個人として、しっかりとつなげたい。

中倉健也(経営4) 1年前は予選会を落として、そこからチームを作りを直すという形で、4年生を中心に頑張ってきた。全員が箱根にも出るという意識を醸成して練習して、その結果が今日につながった。今度も全日本、箱根とある。今日の結果は満足せず、もっと個々の力を強めていき、全員で箱根シード、5位(総合)の目標を達成していきたい。

城西大学 Sports 2017年10月 vol.30 城西大学の歴史は創立者・水田三喜男先生 発行所 〒350-0295 埼玉県飯沼市野々さき1-1 城西大学

記者募集 記事を書いてみませんか。初心者でも大丈夫です。新聞記者経験がある職員が取材・書き方を基本から指導します。留学生も「学生記者」として活躍しています。興味がある学生、やる気がある学生、大歓迎です。写真、イラスト、漫画などで協力してくれる学生もぜひ参加してください。



個人順位表: 24位 金子元氣(経営3) 1時間00分01秒, 29位 菅真大(経営4) 1時間00分15秒, 37位 西嶋雄伸(経営2) 1時間00分23秒, 51位 山本竜也(経営4) 1時間00分42秒, 85位 大石巧(経営3) 1時間01分01秒, 94位 中倉佑仁(経営2) 1時間01分06秒, 100位 服部潤哉(経営3) 1時間01分09秒, 115位 坂久保寛也(経営2) 1時間01分17秒, 127位 中倉公平(経営3) 1時間01分23秒, 143位 藤下拓斗(経営3) 1時間01分33秒

菅真大(経営4) 2年ぶりに正月に箱根に帰ることができた。今日これか気持ちよく走らせて、全日本駅伝を正しくつなぐ。3日に向けて気を引き締めたい。これから1年間、臥薪嘗胆の気持ちで、それぞれの部員をはじめ、マッシュャー、コーチなど、様々な努力をして頑張ってきた。その間の支援、本当のありがたさを感じてきた。これからまだ試合が続いていく。絶対に雪辱をよみがえらせます。



▲男子ソフトボール部

創部以来初の栄えある成績

男子ソフトボール部

全日本インカレ 過去最高の 全国3位に輝く

第52回全日本大学ソフトボール選手権大会(全日本インカレ)は9月14日、岡山県瀬戸市で開かれ、過去最高の3位を挙げた。

高校時代からバッテリーを組む高橋隆(投手)と高橋直也(捕手)のコンビが、創部以来初の栄えある成績を挙げた。

東日本インカレ 初優勝

女子ソフトボール部



▲女子ソフトボール部

第32回東日本大学ソフトボール選手権大会(東日本インカレ)は8月7日、岩手県花巻市で開かれ、初優勝を輝かせた。

ソフトボール部は男女とも好成績を挙げた。男子は全日本インカレで、女子は東日本インカレで優勝を果たした。

3で初優勝を果たした。主将の寺岡優花(経営4)は、苦しい試合ばかりだったが、チーム全員で戦えたからこそ初優勝をつかめた」と言っている。

悲願の全日本インカレ優勝を目指して9月14日に広島県東広島市などで開かれた第52回全日本大学ソフトボール選手権大会に臨んだが、優勝したIPU環太平洋大学に1回戦で当たって0-1と惜敗。悔いが残る結果となった。

8月29、30日に静岡御殿場市の富士カントリー倶楽部で開催された関東秋季ソフトボール対抗戦のダブルで準優勝し、Cブロック復帰を果たした。

春の部活動再開を目前に、佐藤は「今のチームのレベルでは厳しいBブロック昇格には、全員が2日間70台をそろえる必要がある」と話している。

首都大学野球2部の秋季一次リーグは5勝敗終了1部復帰はかななかった。一次リーグでは5位となり、下位チームによる二次リーグの順決定戦に回った。

春の部活動再開を目前に、佐藤は「今のチームのレベルでは厳しいBブロック昇格には、全員が2日間70台をそろえる必要がある」と話している。

春の部活動再開を目前に、佐藤は「今のチームのレベルでは厳しいBブロック昇格には、全員が2日間70台をそろえる必要がある」と話している。

この結果、城西大学と大東文化大学、東京経済大学の3校が勝率で並んだため、3、5位を決める順位決定戦が行われた。

運動前にココアを飲むといいという話を聞いたことがありますか。ココアには、ビタミンやミネラル、カカオポリフェノールなどが含まれていて様々な生理作用に関与するため、健康や美容に良いとされています。

このように、ココアに含まれるカカオポリフェノールは、スポーツをするにあたって様々な効果をもたらします。寒くなってきたこの季節、運動の30分前や夜など毎日2~3回、ココアを飲んでみてはいかがでしょうか。

この結果、城西大学と大東文化大学、東京経済大学の3校が勝率で並んだため、3、5位を決める順位決定戦が行われた。

【本多里菜】

【本多里菜】

渡部「勝つことだけを 考えて走った」



▲表彰式を終え笑顔の渡部

男子400mハードルは渡部のほか、8月の世界陸上ユニバーシアードの代表に選ばれた飯沼大峻(経営4)・富田博貴(経営3)が出場した。



男子400mハードルで優勝を飾った渡部の力走

1500m上田は惜しくも2位



▲並んで賞状を手にする男子1500mリレーのメンバー

渡部は「3年生以下で戦えたので来年は頑張りたい。表彰式が上がったこと無念の思い。港は「自分ももっと走を上げてバトンを渡せばメダルも狙えたと思う」と悔しさを語った。

上田が2大会ぶりに女子1500mの舞台に戻ってきた。1年時は1分50.0秒、3位、昨年は5000m5位と日本インカレで結果を残してきた上田。優勝を期待されていた上田だが、最後の直線で競り負けて笑顔はなかった。

上田

「優勝を狙えたのに悔しい」

天皇賜杯第89回日本学生陸競技対校選手権大会(日本インカレ)は9月8、10日の3日間、福井県の福井運動公園陸上競技場で開かれた。

渡部 世界タイ記録を樹立

200mハードルの日本最高記録 22秒55



10月1日、兵庫県伊丹市の住友総合グラウンド陸上競技場で行われた日本記録挑戦会兼住友電業杯、渡部佳晴(経営3)が男子400mハードルで22秒55の世界タイ記録、日本最高記録を樹立した。

タイ記録を出すことは夢にも思わなかった。本音である400mハードルにもより一層、力を入れた。きたいと思つたと笑顔で語った。

日本記録挑戦会兼住友電業杯

福居 銅メダルを獲得

女子ハーフマラソン



8月23、28日に台湾の台北で行われたユニバーシアードに飯沼大峻(経営4)が男子400mハードルに、福居希(現代政策4)が女子ハーフマラソンに出場した。

連続の金メダル獲得に貢献した。「日本チームとしての団体優勝を第一の目標としていたため、前半は日本選手全員で先頭を引っ張って行くという走り方を心がけていた。後半の勝負どころで1位2位に離されてしまい、力不足だったと悔しさにじまされた。」

ユニバーシアード

男子400mハードル 出場の飯沼大峻 惜しくも準決勝敗退

日本の女性スポーツ政策に対する進言



2017年3月に発表されたスポーツ庁の第二次基本計画に入スポーツを通じた女性の活躍促進が盛り込まれた。同じ今年の4月に、スポーツ庁・日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センター、日本体育協会、日本障がい者スポーツ協会、日本パラリンピック委員会の5団体がスポーツ界の男女平等をめざす「フライング・フラスコ宣言」に署名した。

2017年3月に発表されたスポーツ庁の第二次基本計画に入スポーツを通じた女性の活躍促進が盛り込まれた。

一歩ずつ前へ 部員同士の切磋琢磨は他に負けていない

バドミントン部は、現在1年生と2年生の12人が活動している若いチームだ。ほとんどが高校生からの経験者という背景。



▲バドミントン部

バドミントン部

【石川 慧】

Pharmacy×Sport スポーツとココアの良い関係... 運動前にココアを飲むといいという話を聞いたことがありますか。ココアには、ビタミンやミネラル、カカオポリフェノールなどが含まれていて様々な生理作用に関与するため、健康や美容に良いとされています。